

今回の試験内容について

(5分前着席、5分前問題配布が実現すれば、試験前に読めるかな。読むと少し得をします、たぶん・笑)

大問1 [36点]

授業の骨格になる「授業の目標」（および「授業の前提」）について確認する問題です。

空所補充（空欄穴埋め）問題です。用語の選択肢はありませんが、解答のうちのいくつか（全部じゃないです・汗）は、この試験問題全体の中にも書かれていますので、それも利用してください。

「授業の目標」が大事なんだと、授業中にもお伝えしていますし、これを理解するために、授業中に活動してもらっていますので、解答が平易な割に配点は高くなっています。授業に真剣に、そして周りの人たちと協力して、一緒に取り組んでいけば、かなり定着する（記憶にとどまる）と期待しています。

大問2 [20点]

「生物の多様性と共通性—系統樹」の問題です。

考え方の基本は、「共通の祖先をもつもの、系統の近いものは、共通の特徴が多い」ということです。系統樹の問題の解き方が重要なのではなく、生物の多様性と共通性の基本となる考え方＝「授業の目標」の文が大事なのです。それに基づいて、考えていくことが大切です。

今回は、そのことを試験中にトライしてもらおうという趣旨で作りました。

授業は、いろいろな発想や気づきのある仲間との取り組みなので、こちらからリードするように解かせることはしません。しかし、試験は一人での挑戦ですので、こちらでリードする形で解いてもらおうと思います。もしかすると、今回の試験問題を解くことで、系統樹の捉え方をつかめる人もいるかもしれませんね。そういうチャレンジ問題です。

ただし得意・不得意は出やすい問題なので、配点は低くしました。冒頭に述べた通り、得点を競うものではないと考えていますので、この問題は落としても影響はないという配慮です。

大問3 [10点]

「生物世界の階層性」の問題です。

とはいうものの、授業では個体—細胞—タンパク質（分子）ととらえ、タンパク質の価値の重要性について、映像を中心に実感してもらうことに、ほとんどの時間を使いました。

しかし、「生物世界の階層性」というのは、タンパク質だけのことではなく、分子—細胞—個体—生態系という、生物世界の捉え方のことを指しますので、授業では扱いきれなかった「生物世界の階層性」の全体像について、ここで個人学習をしておこうというものです。したがって、答えは問題の中にしっかりと書かれていますので、それを頼りに確認していただくだけです。図と文を丁寧にみれば、誰でもできる！と願っている問題ですので、しっかりと正解できるように、この時間ないに学んでください。

大問4 [36点]

授業数でいうと、「タンパク質とアミノ酸」で2回、「タンパク質の作り方」で1回ですので、最も多くの時間をこの単元にかけています。なので、配点の高い問題にしてありますが、質問していることは、かなり基本的です。また、授業で確認を何度もしたであろうことです。なので、記述問題（説明する問題）もありますが、授業中に「他の人に説明をする」という活動を重視してやってもらっていますので、その学びの成果をしっかりと出してください。人に説明をすることで、自分の中で知識としての定着も深まります。自分が書いて説明した図、補足資料として使ったかもしれない、教科書や図説の図や記載事項も、思い出すことができると思います。授業で培った学びを、ここで発揮してもらえるとよいとおもいます。期待しています。

基本的な定期考査に対する考え方（読むなら試験後に読みましょう）

これまでの定期考査の価値付けの影響を、多くの人は受けていますので、何点とれるか、というように得点を気にする人が多いと思います。しかし、第1学期・第2学期の中間考査、期末考査の意義は、ここまでの取り組みで、学習の目標が達成できているかを図るものです。したがって、合計点で何点取れたか、ではなく、個々の問題が解けたかどうか＝個々の問題を解くために必要な学習内容を身につけているかどうか、それを判断するためのものです。最初にこのことをしっかりと確認しておいてください。

一方で、試験では得点をつけ、それを学期ごとの評価に組み入れるという学校のルールがありますので、それを勘案して、一応、100点満点の問題として作成はしてあります。しかし、これはあくまでも合計点を算出する必要があるという、こちらの事情でやっていることです。

学習の当事者である皆さんにとって大事なことは、合計点が何点か、ではなく、何ができて、何ができないか、という判断であることを、大事にしてください。ひたらくいえば、合計点議論になっちゃうと、何ができていたかどうか、曖昧になってしまうことが多いということです。

どうしても点数が気になる人は、100点だったかどうか、だけ考えたほうが良いかもしれません。100点ということは、今回求められたことには全部答えられた、ということですし、100点でないということは、どこかに不十分なところがあったということですからね。86点でも23点でも、できないことがある、ということに違いはないのです（できないことの分量には違いがありますから、なぜそうなったのか、ということ振り返る分量と、挽回の努力の分量に違いは出ますけどね・汗）

ましてや、平均点より上かどうか、なんてことは、全く無意味です。（特にこの試験を受けているクラスとしての平均点と比較する意味は、ものすごくないですよ、平均点の基本的な考え方を作り出した統計学的にみてもね）

テストの点数に一喜一憂するのではなく、自分の学習の状況がどうだったか、ということを中心に振り返ってください。特に、

授業での取り組みがどうだったか

です。予習・復習も、物事を学ぶ上では、大事な要素のひとつではあります。しかし、予習というのは、予め学ぶことです。何に向けての予めか、といえば授業です。復習も同じですね。授業を受けての繰り返しの学びです。

生物基礎の授業では、学ぶべきことを、皆さんが主体となって、全力で取り組む、それも周囲の人と協働して、互いに高めあって学び合う、そういう場を提供しています。その場を有効に利用して「授業の目標」達成を目指していれば、成果は必ず出てきます。

授業中にどれくらい全力で取り組めたか

このことを試験を通して振り返ってみてください。